

足利などの戦争体験者



墜落死した日本兵の慰霊碑に手を合わせる宮原さん

「三つの墜落」後世に

【足利】太平洋戦争末期の1945年2月、市や市周辺に戦闘機などが相次いで墜落し、日本の兵士が命を落とした。当時を知る人たちは「三つの墜落」と呼び、戦時中の惨事として百頭空襲とともに語り継いできた。だが、詳しい記録や資料は少なく、語れる人もごくわずか。「地元での戦争の歴史を埋められざるわけにはいかない」。戦後71年目を迎え、戦争体験者たちはあらためて決意を強くする。

西場町に広がる畑の小高た宮原さんは自宅の庭から、息をのんで見詰めていた。慰霊碑が建つ。「お国のためにと、夢のある若者がここので死んでいった」。駒場町の宮原功さん(80)が、静かに手を合わせる。45年2月16日午後3時、陸軍戦闘機の飛燕(ひえん)機が、米軍艦載機の編隊に撃ち落とされた。1機が同町の田んぼに墜落した。「黒煙を上げ、人家を避けるように落ちていった」。小学生だったと同時に起きた。2月

記録、資料が少ない地元の史実



B29が墜落した日の様子を絵に残していた山崎さん



写真などを保管している大川さん

いた佐野市伏新町、山崎金成さん(79)は、その場面を絵に残していた。真っ赤な炎を上げ、落下する米軍機。下から突っ込んでいく日本の戦闘機もあつたという。山崎さんは「激しい戦闘で、今も目に焼き付いている。当時を知る人は少なくなつたが、風化しつつある歴史の事実を、後世に伝えていかなければならない」と語つた。

戦争の悲惨さを訴える。多三つ目は、百頭空襲があつた2月10日。市に隣接する群馬県邑楽町上空で2機を約15分離れた場所で見ると力を込める。

墜落資料中心に平和展 市民有志企画、6日から

【足利】市民有志が、7の酉日、「足利平和展」を市民会館で開く。住民33人が犠牲になつた百頭空襲と三つの墜落を中心に、パネル展や講演などを行う。回展は1997年から毎年が家族に送つた手紙や、町で墜落死した鈴木正一さん(小野裕美子)6908。

B29墜落後の写真などを展示する。7日午後1時から、市周辺の空襲について調べている横浜市の新井勲さん(小野裕美子)が講演する。実行委の秋田清代表(54)は「地元であつた戦争の歴史を通じ、平和について考えるきっかけになれば」と話している。西場町実行委0284・42。